

## I 自己評価の取り組み

平成27年度の学校評価における自己評価について、園の先生に5段階評価と記述で記入してもらい、その結果を集計しました。

今回の自己評価の大項目は、下記の通りです。

- ① 保育の計画性
- ② 保育の在り方、幼児への対応
- ③ 教師としての資質や能力・良識・適正
- ④ 保護者への対応
- ⑤ 地域の自然や社会とのかかわり
- ⑥ 研修と研究
- ◎ 一年間を通しての保育の振り返り・努力点、改善点

各大項目について、それぞれの内容に合わせた評価項目を設け、十分～不十分の5段階評価にして自分の保育を振り返りました。

5段階評価	:	十分	……	5点
		どちらかという也十分	……	4点
		普通	……	3点
		どちらかという和不十分	……	2点
		不十分	……	1点

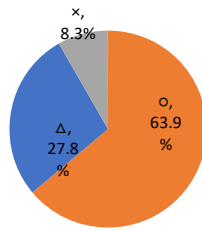
また、評価をした際の気づきや改善課題をまとめて、今後の自分の保育に活かせるようにしました。

## II 27年度自己評価の結果について

### ①「保育の計画性」につ 5段階評価による回答結果

子どもたちの興味あることを中心に保育計画を立ててきたがその活動が教育目標において意義のあるものなのか、検討していくことが必要。指導計画が行事に向けての活動になってしまったり、マンネリ化してしまわないよう見直していきたい。計画→実践→反省→次の活動へとつなげていけるよう、ねらいを持ち、幼児の姿をイメージしながら保育を行いたい。日々の忙しさに追われるだけでなく、新たな計画についても常に挑戦していく気持ちを持っていたい。

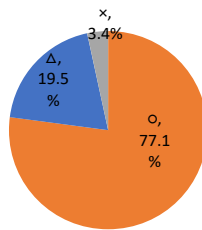
○ → 十分、どちらかという十分  
△ → 普通



○ 63.9%  
△ 27.8%  
× 8.3%

### ②「保育の在り方、幼児への対応」について

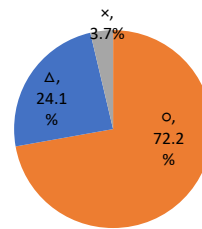
幼稚園での毎日が楽しく過ごせるよう、ひとりひとりとコミュニケーションをとり気持ちに寄り添ったり、適切な援助、信頼関係の構築に努めてきた。他クラスの情報も全員で共有し合ったり、言葉がけの仕方を考えたりしながら、子どもたちに幼稚園で何を感じ何を学んで欲しいのかを明確に、指導にあたりたい。



○ 77.1%  
△ 19.5%  
× 3.4%

### ③「教師としての資質や能力・良識・適正」について

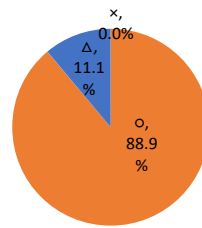
教師として、子どもと共に日々の保育を楽しんだ。責任や自信については教師ひとりひとりに自覚の違いがあるが、向上意欲を持って、研修等への積極的参加もしていきたい。また教師間での保育に関する相談についても考え、職員全員のチームワークで保育にあたれるようにしたい。



○ 72.2%  
△ 24.1%  
× 3.7%

### ④「保護者への対応」について

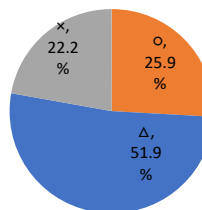
ミニノート、電話連絡、送迎の際等、園での様子を細かく伝え情報交換を密にすることで、子どもの成長を保護者と一緒に見守り励ましてきたが、伝達の仕方やミニノートの活用法が十分でないと感じている意見もあった。今後も誠意をもって対応をしていきたい。



○ 88.9%  
△ 11.1%  
× 0.0%

### ⑤「地域の自然や社会とのかかわり」について

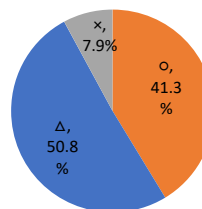
地域の環境条件としてはすばらしいのに、それを保育の中にかしきれていない。また小学校訪問や地域イベントへの参加が年長組でしかなく、それ以外の学年は地域との関わりが少ないことが課題としてあげられた。地域の自然や社会との関わりを取り入れた指導計画の見直しが必要である。



○ 25.9%  
△ 51.9%  
× 22.2%

### ⑥「研修と研究」について

テーマをしばって園内研修をしたり互いの保育を見合ったり、皆で話し合い考えていく時間がとれなかった。研修で学んだことを自己課題と結びつけて、保育にいかせるよう、意識し具体的に考えていきたい。研修参加の機会が少なかったという意見が多かった。



○ 41.3%  
△ 50.8%  
× 7.9%

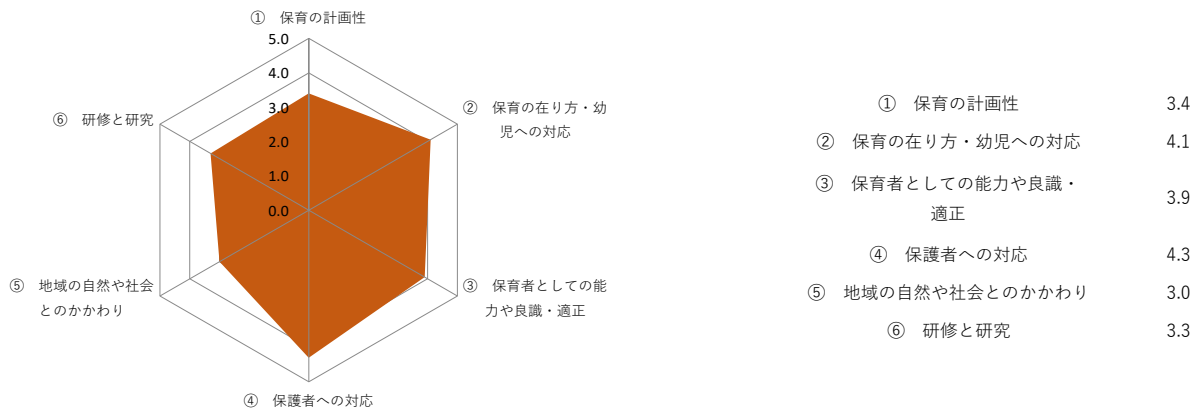
◎一年間を通しての保育の振り返り・努力点、改善点

園生活を笑顔で楽しく過ごすことを第1に、個々との関わりを持つ中で、子どもの目線に立ち、興味あることに取り組んできた。友だちやクラス、学年の集団の中でひとりひとりの成長を把握し、その子に見合った声かけや援助の方法を見つけながら関わってきた。大きなケガがないよう環境設定に気をつけたり、年長組では就学についても意識したり、各先生が子どもとの時間を大切にこの一年を過ごしてきたように思う。

子どもたちの頑張りを認め、ほめてやる気アップにつながるよう工夫し、子ども主体の活動が展開できるようにしたり、皆という集団、クラスという集団を子どもたち自身にどのように意識させ、友だちとの関わりや集団活動への意欲につなげるか課題としていきたい。日々の園生活の中で、子どもたちと共に心にゆとりを持ち、クラスや学年を越えて、みんなで関わり合い育ち合える場所でありたい。

Ⅲ 自己評価分析表（各項目別 平均点）

カテゴリ一名	平均点 (5点満点中)
① 保育の計画性	3.4
② 保育の在り方・幼児への対応	4.1
③ 保育者としての能力や良識・適正	3.9
④ 保護者への対応	4.3
⑤ 地域の自然や社会とのかかわり	3.0
⑥ 研修と研究	3.3
総 合	3.7 (点)



#### Ⅳ 検証結果と改善策、まとめ

今年度も項目は前年度とほぼ変えずに、5段階評価を行なった。

昨年度と比べ全体的に評価が低く、特に「保育の計画性について」は他の項目や前年度に比べても評価が悪くなっていた。 慌ただしい日々の中で、計画や反省の時間が十分にとれないことや課題が次の保育の中でいかしきれていないことなどが挙げられていた。

また前年度同様に「保護者への対応について」の評価は最も高く、細項目の8項目中、不十分またはどちらかという和不十分という評価もなかった。 保護者と共に、子どもにとって今何が必要かを一緒に考えながら保育にのぞんでいるという意見もあり、家庭と園とで連携をとり、丁寧な対応を心がけている。

「地域…」や「研修…」については、参加の機会がづくりにくいことも原因になるが、意識して積極的に取り組めるようにしたい。

一年を振り返り、再度自分の保育を評価し見直すことで、今後の保育への課題や新しい展開を考える機会にもなった。子どもたちの笑顔、保護者の笑顔、先生達の笑顔につながる園生活が送れるよう、努力していきたい。